

●農業学び、触れ、観る

本県の農業後継者育成に足跡を残す県立農業高等学校に隣接して一九九七（平成九）年六月、県農業科学公園（ルピナスパーク）が誕生した。高鍋と川南町のちょうど境、国道10号沿いになり、敷地約十六畝。全国でも珍しい農業と観光が融合した農業のテーマパークとして県民に親しまれている。

県が若者に魅力ある農業の創造を目指そうと、西都・児湯地区で進める「宮崎アグリトピア構想」の一環。「おいしく」「たのしく」「おもしろく」を基本理念に、広々とした緑に囲まれながら、農業について考え、農業を通して遊び、農業の恵みを味わってもらいたい。そんな思いで開設された。

愛称の「ルピナスパーク」は六二（昭和三十七）年、皇太子ご夫妻（現在の天皇、皇后両陛下）が農業大学の前身・高等営農研修所を視

察された際、美智子妃殿下が農場に咲くルピナスを見て、宮中歌会始で詠まれた歌にちなんで。「耕耘機 若きが踏みて草原の 土はルピナスの花をませゆく」

広い園内は「わくわく」「ふれあい」「のびのび」「いこい」の四つのゾーンに分かれる。中心が農業科学館。ロボットのモグラ博士が土の役割を面白く解説、映像による疑似体験で農業を体験できる装置もある。

「フラワーハウス」では花の展示のほか、園芸教室も開催。「ふれ合い体験館」ではアイスクリームやソーセイジなど畜産加工品の手作りを楽しめる。そば打ちの実習もある。学習や遊びに疲れたら「いこいのゾーン」。ジャスミン・ハーブ園、花ショウブ園などの花壇に約三百種の花が一年を通して咲き続ける。散歩道も整備され、散策しながら憩える。

このほか、県産品の販売や食事が楽しめる「うまい館」、ヤギやウサギと触れ合える「ふれあい牧場」、広さ約三畝の芝生を敷き詰めた「太陽の広場」など、「学ぶ」「観（み）る」「触れる」の三要素がふんだんに取り入れられていて楽しい。年間を通して多彩なイベントを計画、観光、学習の場として人気が高まっている。隣接の農業大学校は七十年の歴史を誇り、海外移住者の研修のほか、多くの本県農業後継者を輩出した。設備が整い、志望者も例年定員を超える。ルピナスパークは大学校とも連携、文字通り農業の魅力を発信する場となっている。

堀内文夫



農業と観光が融合した農業のテーマパーク。農業の魅力を伝える